

第2回STSフォーラム中南米カリブ地域ハイレベル会合 林芳正外務大臣ビデオ・メッセージ（仮訳）

2023年3月16日

エブラル・メキシコ外務大臣、
小宮山 STS フォーラム理事長、
御列席の皆様、

こんばんは。

第2回目のSTSフォーラムの中南米カリブ地域会合開催をお祝い申し上げます。本会合に参加することができ、光栄に思います。また、本会合の実現に当たって、エブラル外相のイニシアティブ、メキシコ外務省、STSフォーラム及び関係各位の尽力に敬意を表します。

中南米カリブ諸国は日本にとって古くからの友人であり、自由、民主主義、法の支配など基本的価値を共有する重要なパートナーです。日本は、本年メキシコと国交樹立135周年を迎えたほか、多くの国と100年以上の友好関係を有しています。私自身にとっても中南米は大変親しみのある地域であり、本年最初の外遊先を中南米とし、1月にメキシコ、エクアドル、ブラジル、アルゼンチンを歴訪いたしました。その際にも、改めて中南米カリブ地域の持つ更なる連携のポテンシャルを確信し、各国との「連帯の輪」を拡げていきたいというお話をしました。

私は、科学技術・イノベーションは日本と中南米カリブ地域の更なる連携強化を考える上で最重要分野の一つであると考えます。SATREPS（地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム）と呼ばれるプログラムを通じた、日本と中南米地域の共通の課題である地震などの自然災害に対する減災技術や、アマゾン森林環境保全などの様々な研究協力はその好事例と言えます。

気候変動や感染症といった地球規模課題の解決や持続的で包括的な経済成長といった共通課題に取り組む上でも、科学技術・イノベーションが果たす役割は大きく、我々の協力分野として、更なる発展の可能性を秘めています。

岸田政権は、様々な政策分野の中でも特に科学技術を重視しています。これは、昨年10月に京都で開催されたSTSフォーラム年次総会において、岸田総理が、「現政権は科学技術によるイノベーションを重要な柱としており、イノベーションの源泉となる人への投資を含む基

基礎研究力を強化するとともに、価値観を共有する国々と連携し、国際頭脳循環を促進している」旨述べたことに現れていると言えるでしょう。科学技術研究における公平性、多様性、包摂性という価値を共有する日本と中南米カリブ地域は、この点でも更に重要なパートナーとなることを期待します。

世界的な課題の解決に貢献した素晴らしい研究者といえば、1995年にノーベル賞を受賞したメキシコ人化学者、マリオ・モリーナ博士の功績を忘れることはできません。同博士は、フロンガスによるオゾン層破壊のメカニズムを指摘しました。その後、破壊が進んでいたオゾン層は、現在順調に回復しておりますが、これは国際的に産学官が一致して取り組んだ成果です。

現代の多くの課題の解決には、分野、セクターを超えた協力が必要不可欠であることは明らかです。そのような中において、STS フォーラムは、国際的・学際的に叡智が結集し議論を行うユニークな会議です。本日の会合においても、多様な分野の専門家が一堂に会し、科学技術を取り巻く多岐に亘るテーマで活発な議論が交わされたことと思います。

この機会を活かし、日本と中南米カリブ地域間の連携のネットワークが多層的に繋がり、我々の「連帯の輪」がより良く広がっていくことを期待しています。

御清聴ありがとうございました。